

昨年は明治維新 150 年に当たりました。幕末から維新に関わる史跡を見学し、平成の次の時代に思いを巡らすのも意義深いのではないのでしょうか。嘉永 5 年(1853 年)にペリーが率いるアメリカ合衆国海軍東インド艦隊の蒸気船2隻を含む軍艦4隻が江戸湾(東京湾)入口の浦賀沖に停泊し日本に開国を迫りました。この事件から明治維新までは、「幕末」と呼ばれます。幕府はペリー一行の久里浜上陸を許可し、浦賀奉行が米大統領からの親書を受け取りました。翌年(1854 年)再び来日したペリーは、日米和親条約を締結し、日本は下田と箱館を開港し、鎖国体制は終焉を迎えました。4 年後の 1868 年(明治元年)には明治維新となりました。

東京湾最大の自然島である猿島は、幕末から第二次世界大戦中にかけて、東京湾の首都防衛拠点となり、猿島砲台が築造されました。永年立ち入りが禁止されていた猿島は、三浦半島に残された数少ない原始林です。崖上にはタブノキが、林床にはシダ類が生育しています。なお、「猿島砲台跡」は国指定の史跡となっています。できればガイドに説明してもらいましょう。

実施日：2019年4月9日(火)（悪天候が予想される場合は、メールで連絡の上変更します）

解散場所・時刻：京浜急行・汐入駅 17:00(予定) その後希望者で打上げを予定しています

久里浜のペリー上陸記念碑・ペリー記念館：1853年(嘉永5年)に浦賀に来航した米国ペリー提督の上陸の地です。

三等公園・記念艦三等：1905年(明治38年)に日本海軍とロシア海軍の間に戦われた日本海海戦の旗艦三等を見学します。

猿島：東京湾に浮かぶ唯一の自然島猿島は、旧海軍の要塞として立入禁止でした。島内の自然観察や史跡見学をします。

横須賀軍港めぐり：現在米海軍と海上自衛隊が使用している横須賀港を船で巡り、なぜ軍港になったかのかを考えます。

持ち物：山登りはありませんが、船で海上に出ますので、滑りにくい靴で、ウインドブレーカーをお持ちください。

参 加 費：資料代(100円)のほか、私鉄・バス運賃(600円)、猿島往復乗船料(1,300円)、猿島公園入園料(200円)、猿島ガイド料(600円)、記念艦三笠観覧料(600円)、横須賀軍港めぐり乗船料(1400円)、昼食代(海軍カレーを予定)など。

申込先：西田進 joy@nishida-s.com、緊急連絡先 090-9013-1499

